

大阪市地域コミュニティ活性化ビジョン

～"人が輝く元気な地域"をめざして～

概要版



組織・団体 共通した属性を持つ自助・相互扶助などの地域団体 組織・人材 専門的な知識や技能を持つ地域の人材

ビジョン策定の背景

近年、人々の生活様式や価値観の多様化などによって、地域のつながりが希薄化し、また、地域振興会の加入率の低下や地域活動の担い手の高齢化などもあって、地域活動を推進するうえで、多くの課題が出てきています。このままいくと、地域で長年取り組んできた『心ふれあうコミュニティ』の崩壊が心配されます。そこで、本市では、地域振興会をはじめとした地域の各種団体が主体となり、行政も一緒になって、地域のにぎわいや活力を取り戻すことができるよう、「大阪市地域コミュニティ活性化ビジョン」を策定しました。

ビジョン策定の目的

より多くの市民の参加・協力によって地域課題を解決していくためには、これまで地域振興会が培ってきたコミュニティづくりのノウハウを再認識し、地域と行政が対等な関係のもとで、まちづくりを進めることが大切です。「大阪市地域コミュニティ活性化ビジョン」は、魅力あるまちの基盤となる地域コミュニティの活性化に向けて、本市としての基本的な考え方や果たすべき責務を示し、地域と行政が認識を共有できるようとりまとめたものです。

地域コミュニティを取り巻く課題

社会環境の変化がコミュニティにいろいろな影響をあたえています

大阪市のコミュニティを取り巻く環境の変化

人口	微増傾向だが、転出入者が多く、少子高齢化が進展。
家族形態・居住形態	世帯人員が縮小し、単身・2人世帯が増加。マンションなど共同住宅の割合も増加。
就業・通学状況と情報通信手段	自区内での就業・通学の割合が減少、生活圏域が市区外に拡大。インターネット利用率が増加。
安心・安全	街頭犯罪の発生件数が多い。大規模地震による大被害の心配。
まちづくり課題	地域のつながりが希薄化。高齢者単身世帯の見守り、子育て支援、環境問題への対応など、地域コミュニティに期待される役割が増大。
行政による公的サービス	複雑多様化する地域課題へは行政主体の公的サービスだけでは限界。

地域コミュニティ活動にかかる課題

- 活動参加者の減少と担い手の負担増大
- 地域振興会への加入世帯率の低下
- 地域の各種団体の住民アピール・自律運営の脆弱さ
- 行政協力による団体活動等への影響
- 各種団体間の地域課題の共有化や連携機会の不足
- 地域の各種団体と市民活動団体・企業・大学等との情報の不足
- 団体間の連携促進に向けた中間支援機能の脆弱さ

課題の体系イメージ

